

しが「読み解く力」～理論編Ⅱ～

- 1 理論編Ⅰの振り返り
- 2 イメージ図と子どもの姿
- 3 事例をもとに、
「読み解く力」について考える
 - (1) 小学校第3学年 国語科
 - (2) 中学校第1学年 数学科
 - (3) 中学校第1学年 英語科



「読み解く力」を高め、発揮する
子どもの姿のイメージをもつ。

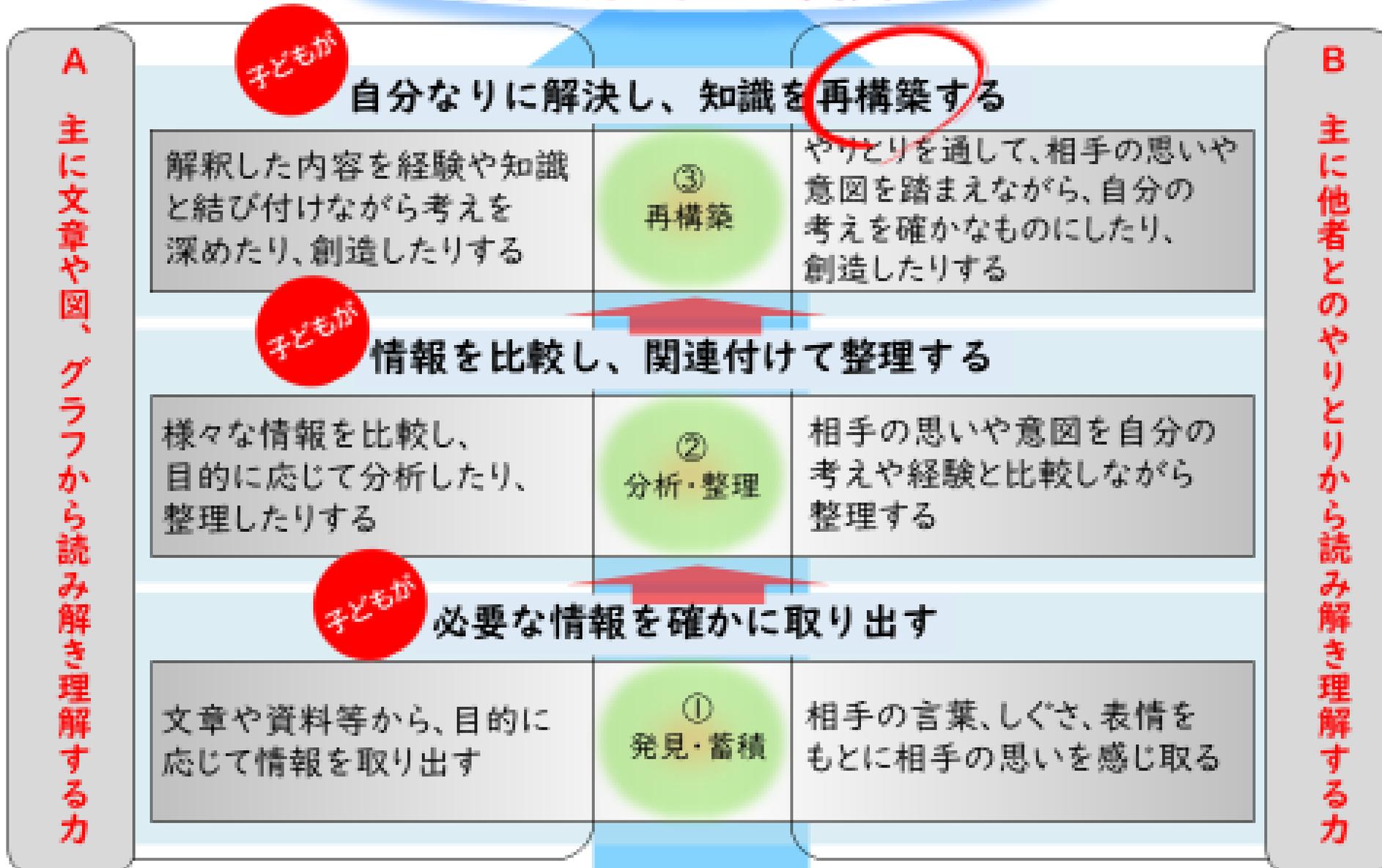
【ねらい】

「読み解く力」を高め、発揮する子どもの姿のイメージをもつ。

- 1 理論編 I の振り返り
- 2 イメージ図と子どもの姿
- 3 事例をもとに、
「読み解く力」について考える
 - (1) 小学校第3学年 国語科
 - (2) 中学校第1学年 数学科
 - (3) 中学校第1学年 英語科



教科等で身に付ける資質・能力



目的意識

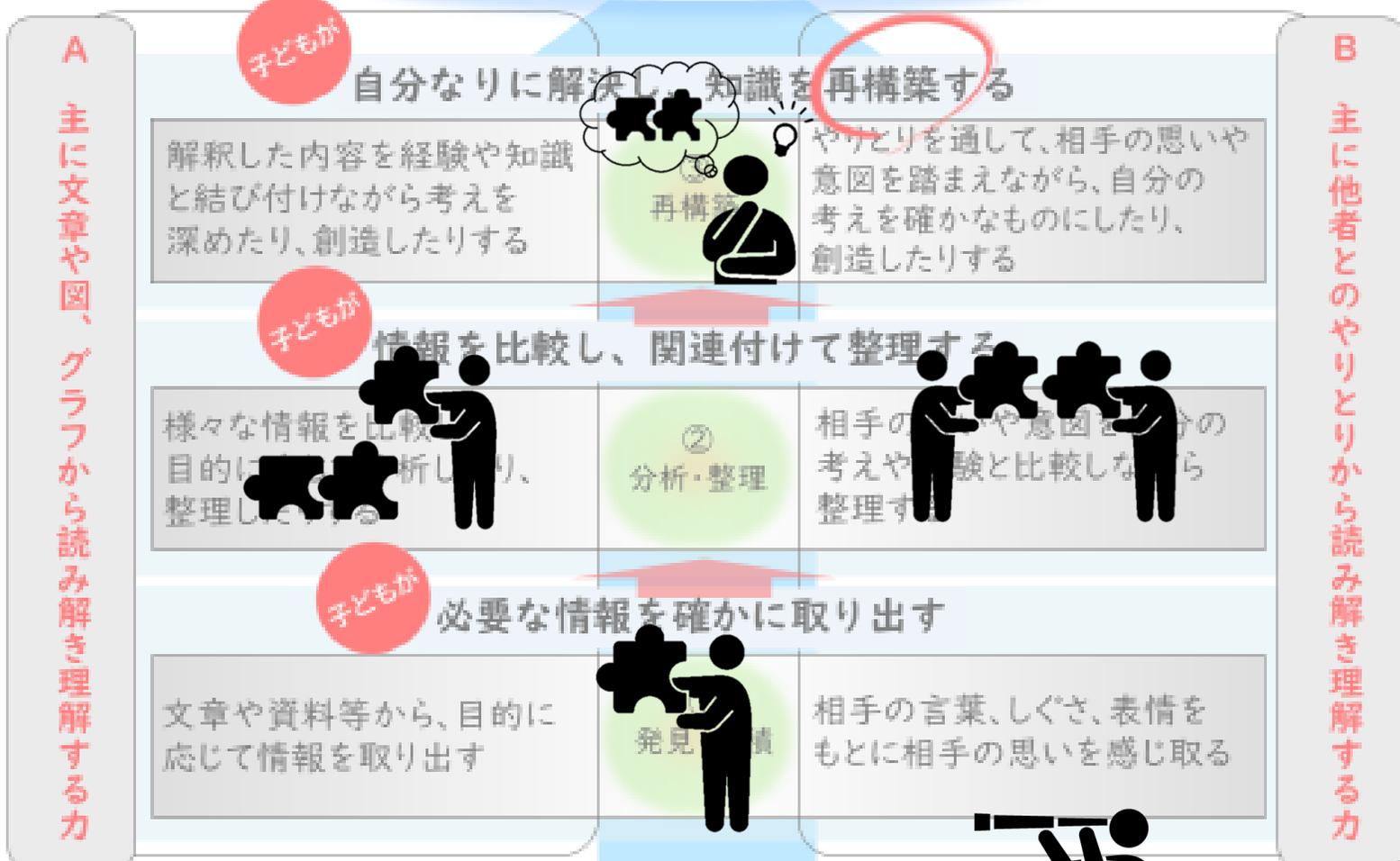
【ねらい】

「読み解く力」を高め、発揮する子どもの姿のイメージをもつ。

- 1 理論編Ⅰの振り返り
- 2 イメージ図と子どもの姿
- 3 事例をもとに、
「読み解く力」について考える
 - (1) 小学校第3学年 国語科
 - (2) 中学校第1学年 数学科
 - (3) 中学校第1学年 英語科



教科等で身に付ける資質・能力



目的意識



【ねらい】

「読み解く力」を高め、発揮する子どもの姿のイメージをもつ。

1 理論編Ⅰの振り返り

2 イメージ図と子どもの姿

3 事例をもとに、

「読み解く力」について考える

(1) 小学校第3学年 国語科

(2) 中学校第1学年 数学科

(3) 中学校第1学年 英語科



小学校 第3学年国語科の実践事例 *新学習指導要領による

「ブックトークで『じーんとくる場面』を紹介しよう」

(教材名「ちいちゃんのかげおくり」光村図書 三下、関連する図書)

単元目標

- ・幅広く読書に親しみ、読書が、必要な情報を得ることに役立つことに気付くことができる。【知識及び技能】(3)オ
- ・心に響く場面とその「わけ」となる登場人物の気持ちの変化や情景を、場面の移り変わりや複数の場面の叙述と結び付けながら具体的に想像することができる。【思考力、判断力、表現力等】C「読むこと」エ
- ・言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、思いや考えを伝え合おうとする。【学びに向かう力、人間性等】

単元構成 (全12時間)

単元構成 (全12時間)	主な学習活動	指導上の留意点	評価規準
第一次	①授業者の本の紹介を聞いて、目的意識をもつ。 ・単元のゴールイメージをもつ。	「じーんとくる場面」とその「わけ」を紹介するブックトークのモデルを示す。 ポイント	目的達成のための課題、解決のための方法を考え、学習計画を立てようとしている。(態)
	②単元のゴールまでの学習計画を立てる。	児童の意見を集約して、計画に反映する。	
第二次	③自読して、物語のあらすじを伝える。	「誰が」「どうして」「どうなった」のかをおさえ、わからない言葉は国語辞典で調べるように伝える。	繰り返し読み、場面の様子や登場人物の行動を表す叙述に着目しようとしている。(態)
	④「じーんとくる場面」とその「わけ」について、叙述にもとづいて自分なりの考えをもつ。	自分が選んだ場面の前後に着目することで、自分が選んだ「わけ」が場面の移り変わりや複数の叙述と結び付けていることに気付くことができるようになる。	選んだ場面となる叙述を取り出し、登場人物の心情等を具体的に想像している。(態)
	⑤「じーんとくる場面」とその「わけ」を複数の叙述と結び付けて考える。		選んだ場面となる叙述を場面の移り変わりや複数の叙述と結び付けることを通して、具体的に想像している。(態)
	⑥「じーんとくる場面」とその「わけ」を友達と交流し、再考する。	全文掲示を行い、着目した部分に記名した付箋を貼ることで、児童が相互に共有できるようにする。 ポイント	
第三次	⑦ブックトークを行い、グループで感想を交流する。	前時で考えた場面とその「わけ」に自分の思いを加えて発表できるようにする。	想像したことについて、課題に沿ってブックトークを行おうとしている。(態)
	⑧関連する図書から自分が選んだ本の「じーんとくる場面」とその「わけ」を考える。	同じ本を選んだ児童同士でグループを構成し、多様に想像を広げて読むことができるようにする。 ポイント	関連する図書のブックトークをするために、読書の幅を広げて本を読んでいる。(知)
	⑨自分が選んだ本の「じーんとくる場面」を友達と交流する。		心に響いた場面とその「わけ」となる叙述を場面の移り変わりや複数の叙述と結び付けて、具体的に想像している。(態)
	⑩自分が選んだ本を読んだ感想をまとめ、交流し、内容を再考する。	交流後、自分の考えを再構築する時間を確保する。	
第四次	⑪ブックトークの会ができるように、役割を分担したり、練習したりする。	「じーんとくる場面」を6年生に紹介して、平和について考えたことを伝えるという目的を再確認する。	目的を明確にして、ブックトークをしようとしている。(態)
	⑫ブックトークを行う。 ・自分たちのブックトークを振り返り、課題や次に生かしたいことを考える。	6年生児童を対象に、司会や進行等、児童が主体となって行う。	新しい世界にふれて興味が広がった楽しさを感じている。(知)

単元目標

この単元で、育成を目指す資質・能力



①授業者の本の紹介を聞いて、目的意識をもつ。
・単元のゴールイメージをもつ。

②単元のゴールまでの学習計画を立てる。



小学校 第3学年国語科の実践事例 *新学習指導要領による

「ブックトークで『じーんとくる場面』を紹介しよう」

(教材名「ちいちゃんのかげおくり」光村図書 三下、関連する図書)

単元目標

- ・幅広く読書に親しみ、読書が、必要な情報を得ることに役立つことに気付くことができる。【知識及び技能】(3)オ
- ・心に響く場面とその「わけ」となる登場人物の気持ちの変化や情景を、場面の移り変わりや複数の場面の叙述と結び付けながら具体的に想像することができる。【思考力、判断力、表現力等】C「読むこと」エ
- ・言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、思いや考えを伝え合おうとする。「学びに向かう力、人間性等」

単元構成 (全12時間)

主な学習活動	指導上の留意点	評価規準
①授業者の本の紹介を聞いて、目的意識をもつ。 ・単元のゴールイメージをもつ。	・「じーんとくる場面」とその「わけ」を紹介するブックトークのモデルを示す。 ・「じーんとくる場面」について共通理解する。	・目的達成のための課題、解決のための方法を考え、学習計画を立てようとしている。(態)
②単元のゴールまでの学習計画を立てる。	・児童の意見を集約して、計画に反映させる。	・繰り返し読み、場面の様子や登場人物の行動を表す叙述に着目しようとしている。(態)
③音読して、物語のあらすじを捉える。	・「誰が」「どうして」「どうなった」のかをおさえ、わからない言葉は国語辞典で調べようとする。	・出だし、登場人物の心情等を具体的に想像している。(態)
④「じーんとくる場面」とその「わけ」について、叙述にもとづいて自分なりの考えをもつ。	・自分が選んだ場面の前後に着目することで、自分が選んだ「わけ」が場面の移り変わりや複数の叙述と結び付けていることに気付くことができるようにする。	・選んだ場面となる叙述を場面の移り変わりや複数の叙述と結び付けることを通して、具体的に想像している。(態)
⑤「じーんとくる場面」とその「わけ」を複数の叙述と結び付けて考える。	・全文提示を行い、着目し、その部分に記名した付箋を貼ることで、児童が相互に共有できるようにする。	
第6時の展開・指導上の留意点等の詳しい内容はこちら！		
⑥「じーんとくる場面」とその「わけ」を友達と交流し、再考する。		
⑦ブックトークを行い、グループで感想を交流する。	・前時で考えた場面とその「わけ」に自分の思いを加えて発表できるようにする。	・想像したことについて、課題に沿ってブックトークを行うとしている。(態)
⑧関連する図書から自分が選んだ本の「じーんとくる場面」とその「わけ」を考える。	・同じ本を選んだ児童同士でグループを構成し、多様に想像を広げて読むことができるようにする。	・関連する図書のブックトークをするために、読書の幅を広げて本を読んでいる。(知)
⑨自分が選んだ本の「じーんとくる場面」を友達と交流する。		・心に響いた場面とその「わけ」となる叙述を場面の移り変わりや複数の叙述と結び付けて、具体的に想像している。(態)
⑩自分が選んだ本を読んだ感想をまとめ、交流し、内容を再考する。	・交流後、自分の考えを再構築する時間を確保する。	
⑪ブックトークの会ができるように、役割を分担したり、練習したりする。	・「じーんとくる場面」を6年生に紹介して、平和について考えたことを伝えるという目的を再確認する。	・目的を明確にして、ブックトークをしようとしている。(態)
⑫ブックトークを行う。 ・自分たちのブックトークを振り返り、課題や次に生かしたいことを考える。	・6年生児童を対象に、司会や進行等、児童が主体となって行う。	・新しい世界にふれて興味が広がった楽しさを感じている。(知)

教科書教材



- ③音読して、物語のあらすじを捉える。
- ④「じーんとくる場面」とその「わけ」について、叙述にもとづいて自分なりの考えをもつ。
- ⑤「じーんとくる場面」とその「わけ」を複数の叙述と結び付けて考える。

※「読み解く力」に関わる指導上の留意点や評価規準については、Aの側面は... Bの側面は...

小学校 第3学年国語科の実践事例 *新学習指導要領による

「ブックトークで『じーんとくる場面』を紹介しよう」

(教材名「ちいちゃんのかげおくり」光村図書 三下、関連する図書)

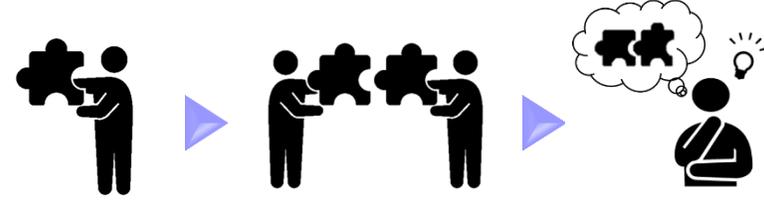
単元目標

- ・幅広く読書に親しみ、読書が、必要な情報を得ることに役立つことに気付くことができる。【知識及び技能】(3)オ
- ・心に響く場面とその「わけ」となる登場人物の気持ちの変化や情景を、場面の移り変わりや複数の場面の叙述と結び付けながら具体的に想像することができる。【思考力、判断力、表現力等】C「読むこと」エ
- ・言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、思いや考えを伝え合おうとする。「学びに向かう力、人間性等」

単元構成

単元構成 (全12時間)	主な学習活動	指導上の留意点	評価規準
第一次	①授業者の本の紹介を聞いて、目的意識をもつ。 ・単元のゴールイメージをもつ。	・「じーんとくる場面」とその「わけ」を紹介するブックトークのモデルを示す。 ・「じーんとくる場面」について共通理解する。	・目的達成のための課題、解決のための方法を考え、学習計画を立てようとしている。(態)
	②単元のゴールまでの学習計画を立てる。	・児童の意見を集約して、計画に反映する。	
第二次	③自読して、物語のあらすじを促える。	・「誰が」「どうして」「どうなった」のかをおさえ、わからない言葉は国語辞典で調べようとする。	・繰り返し読み、場面の様子や登場人物の行動を表す叙述に着目しようとしている。(態)
	④「じーんとくる場面」とその「わけ」について、叙述にもとづいて自分なりの考えをもつ。	・自分が選んだ場面の前後に着目することで、自分が選んだ「わけ」が場面の移り変わりや複数の叙述と結び付いていることに気付くことができるようになる。	・選んだ場面となる叙述を取り出し、登場人物の心情等を具体的に想像している。(態)
	⑤「じーんとくる場面」とその「わけ」を友達と交流し、再考する。	・全文掲示を行い、着目した部分に記名した付箋を貼ることで、児童が相互に共有できるようにする。	・選んだ場面となる叙述を場面の移り変わりや複数の叙述と結び付けることを通して、具体的に想像している。(態)
	⑥「じーんとくる場面」とその「わけ」を友達と交流し、再考する。	・全文掲示を行い、着目した部分に記名した付箋を貼ることで、児童が相互に共有できるようにする。	・選んだ場面となる叙述を場面の移り変わりや複数の叙述と結び付けることを通して、具体的に想像している。(態)
第三次	⑦ブックトークを行い、グループで感想を交流する。	・前時で考えた場面とその「わけ」に自分の思いを加えて発表できるようにする。	・想像したことについて、課題に沿ってブックトークを行おうとしている。(態)
	⑧関連する図書から自分が選んだ本の「じーんとくる場面」とその「わけ」を考える。	・同じ本を選んだ児童同士でグループを構成し、多様に想像を広げて読むことができるようにする。	・関連する図書のブックトークをするために、読書の幅を広げて本を読んでいる。(知)
	⑨自分が選んだ本の「じーんとくる場面」を友達と交流する。	・交流後、自分の考えを再構築する時間を確保する。	・心に響いた場面とその「わけ」となる叙述を場面の移り変わりや複数の叙述と結び付けて、具体的に想像している。(態)
第四次	⑩ブックトークの会ができるように、役割を分担したり、練習したりする。	・「じーんとくる場面」を6年生に紹介して、平和について考えたことを伝えるという目的を再確認する。	・目的を明確にして、ブックトークをしようとしている。(態)
	⑪ブックトークを行う。 ・自分たちのブックトークを振り返り、課題や次に生かしたいことを考える。	・6年生児童を対象に、司会や進行等、児童が主体となって行う。	・新しい世界にふれて興味が広がった楽しさを感じている。(知)

教科書教材



資質・能力

A・文章や図、グラフ

B・他者とのやりとり

③再構築

②分析・整理

①発見・蓄積

⑥「じーんとくる場面」とその「わけ」を友達と交流し、再考する。

⑦ブックトークを行い、グループで感想を交流する。

小学校 第3学年国語科の実践事例 *新学習指導要領による

「ブックトークで『じーんとくる場面』を紹介しよう」

(教材名「ちいちゃんのかげおくり」光村図書 三下、関連する図書)

単元目標

- ・幅広く読書に親しみ、読書が、必要な情報を得ることに役立つことに気付くことができる。〔知識及び技能〕(3)オ
- ・心に響く場面とその「わけ」となる登場人物の気持ちの変化や情景を、場面の移り変わりや複数の場面の叙述と結び付けながら具体的に想像することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕C「読むこと」エ
- ・言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、思いや考えを伝え合おうとする。「学びに向かう力、人間性等」

単元構成 (全12時間)

主な学習活動	指導上の留意点	評価規準
①授業者の本の紹介を聞いて、目的意識をもつ。 ・単元のゴールイメージをもつ。	・「じーんとくる場面」とその「わけ」を紹介するブックトークのモデルを示す。 ・「じーんとくる場面」について共通理解する。	・目的達成のための課題、解決のための方法を考え、学習計画を立てようとしている。(態)
②単元のゴールまでの学習計画を立てる。	・児童の意見を集約して、計画に反映する。	
③自読して、物語のあらすじを促える。	・「誰が」「どうして」「どうなった」のかをおさえ、わからない言葉は国語辞典で調べようとする。	・繰り返し読み、場面の様子や登場人物の行動を表す叙述に着目しようとしている。(態)
④「じーんとくる場面」とその「わけ」について、叙述にもとづいて自分なりの考えをもつ。	・自分が選んだ場面の前後に着目することで、自分が選んだ「わけ」が場面の移り変わりや複数の叙述と結び付いていることに気付くことができるようになる。	・選んだ場面となる叙述を取り出し、登場人物の心情等を具体的に想像している。(態)
⑤「じーんとくる場面」とその「わけ」を複数の叙述と結び付けて考える。	・自分が選んだ場面の前後に着目することで、自分が選んだ「わけ」が場面の移り変わりや複数の叙述と結び付いていることに気付くことができるようになる。	・選んだ場面となる叙述を場面の移り変わりや複数の叙述と結び付けることを通して、具体的に想像している。(態)
⑥「じーんとくる場面」とその「わけ」を友達と交流し、再考する。	・全文掲示を行い、着目した部分に記名した付箋を貼ることで、児童が相互に共有できるようにする。	
第6時の展開・指導上の留意点等の詳しい内容はこちら！		
⑦ブックトークを行い、グループで感想を交流する。	・前時で考えた場面とその「わけ」に自分の思いを加えて発表できるようにする。	・想像したことについて、課題に沿ってブックトークを行うとしている。(態)
⑧関連する図書から自分が選んだ本の「じーんとくる場面」とその「わけ」を考える。	・同じ本を選んだ児童同士でグループを構成し、多様に想像を広げて読むことができるようにする。	・関連する図書のブックトークをするために、読書の魅力を述べた本を読んでいる。(知)
⑨自分が選んだ本を読んだ感想をまとめ、交流し、内容を再考する。	・交流後、自分の考えを再構築する時間を確保する。	・心に響いた場面とその「わけ」となる叙述を場面の移り変わりや複数の叙述と結び付けて、具体的に想像している。(態)
⑩ブックトークの会ができるように、役割を分担したり、練習したりする。	・「じーんとくる場面」を6年生に紹介して、平和について考えたことを伝えるという目的を再確認する。	・目的を明確にして、ブックトークをしようとしている。(態)
⑪ブックトークを行う。 ・自分たちのブックトークを振り返り、課題や次に生かしたいことを考える。	・6年生児童を対象に、司会や進行等、児童が主体となって行う。	・新しい世界にふれて興味が広がった楽しさを感じている。(知)

自分で選んだ本



⑧関連する図書から自分が選んだ本の「じーんとくる場面」とその「わけ」を考える。

※「読み解く力」に関わる指導上の留意点や評価規準については、Aの側面は、目的の側面は、Bを示す。

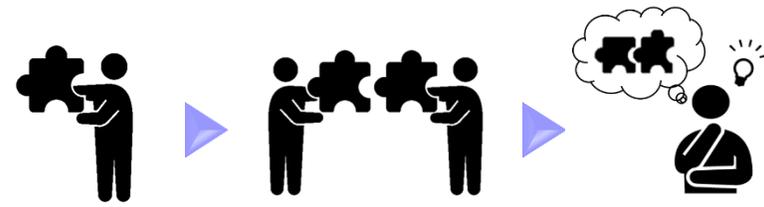
小学校 第3学年国語科の実践事例 *新学習指導要領による
 「ブックトークで『じーんとくる場面』を紹介しよう」
 (教材名「ちいちゃんのかげおくり」光村図書 三下、関連する図書)

単元目標
 ・幅広く読書に親しみ、読書が、必要な情報を得ることに役立つことに気付くことができる。〔知識及び技能〕(3)オ
 ・心に響く場面とその「わけ」となる登場人物の気持ちの変化や情景を、場面の移り変わりや複数の場面の叙述と結び付けながら具体的に想像することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕C「読むこと」エ
 ・言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、思いや考えを伝え合おうとする。「学びに向かう力、人間性等」

単元構成 (全12時間)

主な学習活動	指導上の留意点	評価規準
①授業者の本の紹介を聞いて、目的意識をもつ。 ・単元のゴールイメージをもつ。	・「じーんとくる場面」とその「わけ」を紹介するブックトークのモデルを示す。 ・「じーんとくる場面」について共通理解する。	・目的達成のための課題、解決のための方法を考え、学習計画を立てようとしている。(態)
②単元のゴールまでの学習計画を立てる。	・児童の意見を集約して、計画に反映する。	
③自読して、物語のあらすじを促える。	・「誰が」「どうして」「どうなった」のかをおさえ、わからない言葉は国語辞典で調べようとする。(態)	・繰り返し読み、場面の様子や登場人物の行動を表す叙述に着目しようとしている。(態)
④「じーんとくる場面」とその「わけ」について、叙述にもとづいて自分なりの考えをもつ。	・自分が選んだ場面の前後に着目することで、自分が選んだ「わけ」が場面の移り変わりや複数の叙述と結び付いていることに気付くことができるようになる。	・選んだ場面となる叙述を取り出し、登場人物の心情等を具体的に想像している。(態)
⑤「じーんとくる場面」とその「わけ」を複数の叙述と結び付けて考える。		・選んだ場面となる叙述を場面の移り変わりや複数の叙述と結び付けることを通して、具体的に想像している。(態)
⑥「じーんとくる場面」とその「わけ」を友達と交流し、再考する。	・全文掲示を行い、着目した部分に記名した付箋を貼ることで、児童が相互に共有できるようにする。	
第6時の展開・指導上の留意点等の詳しい内容はこちら！		
⑦ブックトークを行い、グループで感想を交流する。	・前時で考えた場面とその「わけ」に自分の思いを加えて発表できるようにする。	・想像したことについて、課題に沿ってブックトークを行うようとしている。(態)
⑧関連する図書から自分が選んだ本の「じーんとくる場面」とその「わけ」を再考する。	・同じ本を選んだ児童同士でグループを構成し、多様に想像を広げて読むことができるようにする。	・関連する図書のブックトークをするために、読書の幅を広げて本を読んでいる。(知)
⑨自分が選んだ本の「じーんとくる場面」を友達と交流する。		・心に響いた場面とその「わけ」に着目して、具体的な想像している。(態)
⑩自分が選んだ本を読んだ感想をまとめ、交流し、内容を再考する。	・交流後、自分の考えを再構築する時間を確保する。	・りや複数の叙述と結び付けて、具体的に想像している。(態)
⑪ブックトークの会ができるように、役割を分担したり、練習したりする。	・「じーんとくる場面」を6年生に紹介して、平和について考えたことを伝えるという目的を再確認する。	・目的を明確にして、ブックトークをしようとしている。(態)
⑫ブックトークを行う。 ・自分たちのブックトークを振り返り、課題や次に生かしたいことを考える。	・6年生児童を対象に、司会や進行等、児童が主体となって行う。	・新しい世界にふれて興味が広がった楽しさを感じている。(知)

自分で選んだ本



資質・能力

A・文章や図、グラフ ③再構築

B・他者とのやりとり ②分析・整理 ①発見・蓄積

⑨自分が選んだ本の「じーんとくる場面」を友達と交流する。

⑩自分が選んだ本を読んだ感想をまとめ、交流し、内容を再考する。

※「読み解く力」に関わる指導上の留意点や評価規準については、Aの側面は... Bの側面は... 予定です。

本単元において、特に「読み解く力」を高め、発揮している児童の姿

- ◆自分が選んだ本について、教科書教材での学び等をもとに自分の考えを吟味し、聞き手に伝わる内容にするにはどうすればよいか検討する姿 (A③)
- ◆意見の交流後、話し合ったことをもとに、自分の考えを再構築する姿 (B③)

資質・能力

③再構築

②分析・整理

①発見・蓄積

「読み解く力」イメージ図との関係

第6時の展開 (全12時間)

本時の目標 場面の移り変わりなど複数の場面の叙述を結び付けて、登場人物の気持ちの変化や情景を具体的に想像することができる。

主な学習活動	指導上の留意点(○)・評価規準(□)
<p>1. 単元のゴールを再確認し、本時の学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ブックトークで自分が選んだ物語の「じーんとくる場面」とその「わけ」を紹介する単元のゴールを再確認して、学習の進め方の見通しをもつ。 <p>2. めあてをもつ。</p> <p style="background-color: yellow; padding: 2px;">わたしの「じーんとくる場面」をしょうかいするために、一番びったりくる「わけ」は何だろう。</p> <p>3. グループで共に学び合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 全文シートの「じーんとくる場面」が記載されている部分に記名した付箋を貼し、同じ場面を選んだ児童同士でグループで話し合う。 迷っていることや考えていることなどを出し合い、「わけ」を明確にできるようにする。 <p>4. 全体で共に学び合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> グループで解決できなかったことを、全体で話し合う。 「じーんとくる場面」は決まっているけれど、その「わけ」をどのように伝えればよいのだろう。 自分の考えは、○○さんの考えに近いような気がする。 <p>5. 自分で考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分が考えた「わけ」を再考し、まとめる。 <p>6. 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> めあてに立ち返って、本時で考えたことや解決できたことを自分の言葉でまとめる。 次時の見通しをもつ。 友達の見解を聞いて、もやもやしていた自分の考えがまとまりました。 	<p>○学習の目的と学習計画を提示し、見通しをもって学習に取り組めるようにする。</p> <p>○「じーんとくる場面」を説明する「わけ」がはっきり考えられていなかったり、迷いがあったりすることを引き出し、学び合いへの目的意識を高める。</p> <p>○提示している全文を縮小したシートを各グループに渡し、着目した部分の「わけ」を記入した付箋を貼る。</p> <p>○全文提示の叙述と叙述を練でつなぎ、変化したことを書き込むことで、友達のことを共有できるようにする。</p> <p>○「じーんとくる場面」とその「わけ」を全体で共有することで、場面の移り変わりから登場人物の気持ちの変化や情景を読み解くことにつながるようにする。</p> <p>○共有した後、自分のワークシートに戻って、自分の考えの整理を促す。</p> <p>○心に響く場面とその「わけ」を説明するために、場面の移り変わりや複数の場面の叙述を結び付けて、登場人物の気持ちの変化や情景を具体的に想像している。(希)</p>

本時の目標
 場面の移り変わりなど複数の場面の叙述を結び付けて、登場人物の気持ちの変化や情景を具体的に想像することができる。

5. 自分で考える。
 ・自分が考えた「わけ」を再考し、まとめる。

6. 学習を振り返る。
 ・めあてに立ち返って、本時で考えたことや解決できたことを自分の言葉でまとめる。
 ・次時の見通しをもつ。

本単元において、特に「読み解く力」を高め、発揮している児童の姿

- ◆自分が選んだ本について、教科書教材での学び等をもとに自分の考えを吟味し、聞き手に伝わる内容にするにはどうすればよいか検討する姿 (A③)
- ◆意見の交流後、話し合ったことをもとに、自分の考えを再構築する姿 (B③)

第6時の展開 (全12時間)

本時の目標 場面の移り変わりなど複数の場面の叙述を結び付けて、登場人物の気持ちの変化や情景を具体的に想像することができる。

主な学習活動	指導上の留意点(○)・評価規準(□)
<p>1. 単元のゴールを再確認し、本時の学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ブックトークで自分が選んだ物語の「じーんとくる場面」とその「わけ」を紹介する単元のゴールを再確認して、学習の進め方の見通しをもつ。 <p>2. めあてをもつ。</p> <p>わたしの「じーんとくる場面」をしようかいるために、一番ぴったりくる「わけ」は何だろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○学習の目的と学習計画を提示し、見通しをもって学習に取り組めるようにする。 ○「じーんとくる場面」を説明する「わけ」がはっきり考えられていなかったり、迷いがあったりすることを引き出し、学び合いへの目的意識を高める。
<p>3. グループで共に学び合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 全文シートの「じーんとくる場面」が記載されている部分に記した付箋を貼り、同じ場面を選んだ児童同士でグループで話し合う。 迷っていることや考えていることなどを出し合い、「わけ」を明確にできるようにする。 <p>グループ学習の目的の明確化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○提示している全文を縮小したシートを各グループに渡し、着目した部分の「わけ」を記入した付箋を貼る。
<p>4. 全体で共に学び合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> グループで解決できなかったことを、全体で話し合う。 「じーんとくる場面」は決まっているけれど、その「わけ」をどのように伝えればよいのだろう。 自分の考えは、○○さんの考えに近いような気がする。 <p>全体交流の進め方の工夫</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○全文提示の叙述と叙述を練ってつなぎ、変化したことを書き込むことで、友達との考えを共有できるようにする。 ○「じーんとくる場面」とその「わけ」を全体で共有することで、場面の移り変わりから登場人物の気持ちの変化や情景を読み解くことにつながるようにする。 <p>ポイント</p>
<p>5. 自分で考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分が考えた「わけ」を再考し、まとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○共有した後、自分のワークシートに戻って、自分の考えの再構築を図る時間を確保する。
<p>6. 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> めあてに立ち返って、本時で考えたことや解決できたことを自分の言葉でまとめる。 次時の見通しをもつ。 友達の意見を聞いて、もやもやしていた自分の考えがまとまりました。 	<ul style="list-style-type: none"> □心に響く場面とその「わけ」を説明するために、場面の移り変わりや複数の場面の叙述を結び付けて、登場人物の気持ちの変化や情景を具体的に想像している。(希) ○めあてを再確認し、めあてに対する振り返りになるようにする。

1. 単元のゴールを再確認し、本時の学習の見通しをもつ。

- ・ブックトークで自分が選んだ物語の「じーんとくる場面」とその「わけ」を紹介する単元のゴールを再確認して、学習の進め方の見通しをもつ。

2. めあてをもつ。

わたしの「じーんとくる場面」をしようかいるために、一番ぴったりくる「わけ」は何だろう。



本単元において、特に「読み解く力」を高め、発揮している児童の姿

- ◆自分が選んだ本について、教科書教材での学び等をもとに自分の考えを吟味し、聞き手に伝わる内容にするにはどうすればよいか検討する姿 (A③)
- ◆意見の交流後、話し合ったことをもとに、自分の考えを再構築する姿 (B③)

A・文章や図、グラフ

③再構築

②分析・整理

①発見・蓄積

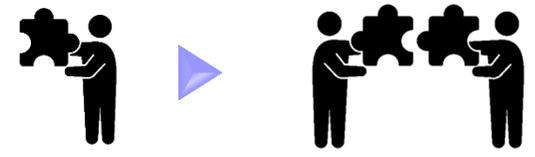
B・他者とのやりとり

「読み解く力」イメージ図との関係

第6時の展開 (全12時間)

本時の目標 場面の移り変わりなど複数の場面の叙述を結び付けて、登場人物の気持ちの変化や情景を具体的に想像することができる。

主な学習活動	指導上の留意点(○)・評価規準(□)
1. 単元のゴールを再確認し、本時の学習の見通しをもつ。 -ブックトークで自分が選んだ物語の「じーんとくる場面」とその「わけ」を紹介する単元のゴールを再確認して、学習の進め方の見通しをもつ。	○学習の目的と学習計画を提示し、見通しをもって学習に取り組めるようにする。 ○「じーんとくる場面」を説明する「わけ」がはっきり考えられていなかったり、迷いがあったりすることを引き出し、学び合いへの目的意識を高める。
2. めあてをもつ。 わたしの「じーんとくる場面」をしようかいつかのために、一番びったりくる「わけ」は何だろう。	
3. グループで共に学び合う。 -全文シートの「じーんとくる場面」が記載されている部分に記した付箋を貼り、同じ場面を選んだ児童同士のグループで話し合う。 -迷っていることや考えていることなどを出し合い、「わけ」を明確にできるようにする。	○提示している全文を縮小したシートを各グループに渡し、着目した部分の「わけ」を記入した付箋を貼る。
4. 全体で共に学び合う。 -グループで解決できなかったことを、全体で話し合う。 -「じーんとくる場面」は決まっているけれど、その「わけ」をどのように伝えればよいのだろう。 -自分の考えは、○○さんの考えに近いような気がする。	○全文提示の叙述と叙述を線でつなぎ、変化したことを書き込むことで、友達のを共有できるようにする。 ○「じーんとくる場面」とその「わけ」を全体で共有することで、場面の移り変わりから登場人物の気持ちの変化や情景を読み解くことにつながるようにする。
5. 自分で考える。 -自分が考えた「わけ」を再考し、まとめる。	○共有した後、自分のワークシートに戻って、自分の考えの再構築を図る時間を確保する。
6. 学習を振り返る。 -めあてに立ち返って、本時で考えたことや解決できなかったことを自分の言葉でまとめる。 -次時の見通しをもつ。 -友達の見解を聞いて、もやもやしていた自分の考えがまとまりました。	□心に響く場面とその「わけ」を説明するために、場面の移り変わりや複数の場面の叙述を結び付けて、登場人物の気持ちの変化や情景を具体的に想像している。(希) ○めあてを再確認し、めあてに対する振り返りになるようにする。



3. グループで共に学び合う。

- ・ 同じ場面を選んだ児童同士のグループで話し合う。
- ・ 迷っていることや考えていることなどを出し合い、「わけ」を明確にできるようにする。

4. 全体で共に学び合う。

- ・ グループで解決できなかったことを、全体で話し合う。



本単元において、特に「読み解く力」を高め、発揮している児童の姿

- ◆自分が選んだ本について、教科書教材での学び等をもとに自分の考えを吟味し、聞き手に伝わる内容にするにはどうすればよいか検討する姿 (A③)
- ◆意見の交流後、話し合ったことをもとに、自分の考えを再構築する姿 (B③)



第6時の展開 (全12時間)

本時の目標 場面の移り変わりなど複数の場面の叙述を結び付けて、登場人物の気持ちの変化や情景を具体的に想像することができる。

主な学習活動	指導上の留意点(○)・評価規準(□)
1. 単元のゴールを再確認し、本時の学習の見通しをもつ。 ・ブックトークで自分が選んだ物語の「じーんとくる場面」とその「わけ」を紹介する単元のゴールを再確認して、学習の進め方の見通しをもつ。 2. めあてをもつ。 わたしの「じーんとくる場面」をしょうかいするために、一番びったりくる「わけ」は何だろう。	○学習の目的と学習計画を提示し、見通しをもって学習に取り組めるようにする。 ○「じーんとくる場面」を説明する「わけ」がはっきり考えられていなかったり、迷いがあったりすることを引き出し、学び合いへの目的意識を高める。
3. グループで共に学び合う。 ・全文シートの「じーんとくる場面」が記載されている部分に記した付箋を貼り、同じ場面を選んだ児童同士でグループで話し合う。 ・迷っていることや考えていることなどを出し合い、「わけ」を明確にできるようにする。	○提示している全文を縮小したシートを各グループに渡し、着目した部分の「わけ」を記入した付箋を貼る。
4. 全体で共に学び合う。 ・グループで解決できなかったことを、全体で話し合う。 ・「じーんとくる場面」は決まっているけれど、その「わけ」をどのように伝えればよいのだろう。 ・自分の考えは、○○さんの考えに近いような気がする。	○全文提示の叙述と叙述を線でつなぎ、変化したことを書き込むことで、友達のことを共有できるようにする。 ○「じーんとくる場面」とその「わけ」を全体で共有することで、場面の移り変わりから登場人物の気持ちの変化や情景を読み解くことにつながるようにする。
5. 自分で考える。 ・自分が考えた「わけ」を再考し、まとめる。	○共有した後、自分のワークシートに戻って、自分の考えの再構築を図る時間を確保する。 □心に響く場面とその「わけ」を説明するために、場面の移り変わりや複数の場面の叙述を結び付けて、登場人物の気持ちの変化や情景を具体的に想像している。(希)
6. 学習を振り返る。 ・めあてに立ち返って、本時で考えたことや解決できたことを自分の言葉でまとめる。 ・次時の見通しをもつ。 ・友達の意見を聞いて、もやもやしていた自分の考えがまとまりました。	○めあてを再確認し、めあてに対する振り返りになるようにする。

5. 自分で考える。

- ・自分が考えた「わけ」を再考し、まとめる。

6. 学習を振り返る。

- ・めあてに立ち返って、本時で考えたことや解決できたことを自分の言葉でまとめる。
- ・次時の見通しをもつ。

【ねらい】

「読み解く力」を高め、発揮する子どもの姿のイメージをもつ。

- 1 理論編 I の振り返り
- 2 イメージ図と子どもの姿
- 3 事例をもとに、
「読み解く力」について考える
 - (1) 小学校第3学年 国語科
 - (2) 中学校第1学年 数学科
 - (3) 中学校第1学年 英語科



中学校 第1学年数学科の実践事例 ※現行の学習指導要領による

単元構成はこちら (滋賀県総合教育センターHP)

本時の目標 具体的な事象について、比例の考え方を利用して問題解決を図ることができる。

本時において、特に「読み解く力」を高め、発揮している生徒の姿

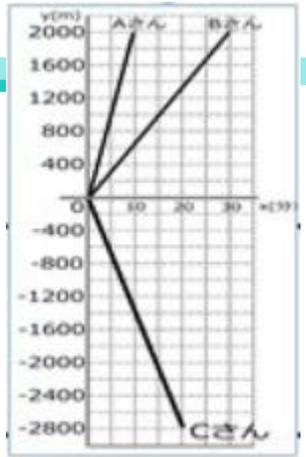
- ◆ 比例について、表、式、グラフを活用して、変化の特徴を見いだすことができる姿(A②)
- ◆ 具体的な事象を通して比例について考えることで、整理されたり、理解が深まったりしたことを再構築する姿(A③・B③)

本時(第9時)の展開

主な学習活動	指導上の留意点(○)・評価規準(□)
<p>1. 本時の目標を知る。</p> <p>2. グラフから情報を読み取る。 ・「Aさんのほうがスピードが速い。」 ・「目盛りがないから見にくい。」等</p> <p>3. 問題1について考える。 問題1: 学校から東に向かって出発したAさんとBさんが5分後に離れている距離を求めなさい。</p> <p>4. 本時の課題を確認する。 5分後に、2人がどのくらい離れているかを調べるには、どうすればよいのだろうか。</p> <p>5. 課題を解決するために必要な情報について考える。 ・「時間と距離の数値が必要だ。」 ・「AさんとBさんの速さが知りたい。」等</p> <p>6. 課題解決に取り組む。(個人からペアへ) ・グラフから読み取って考える。 ・式に表して考える。等</p> <p>7. AさんとBさんのグラフについて、考え方や解決方法をまとめる。 ・「グラフは変化が見やすい。」 ・「グラフでは読み取れない部分もある。」 ・「式は値を代入するだけで、求めたい答えがわかる。」等</p> <p>8. 問題2について考える。 問題2: 5分後のCさんとAさんの距離は、どのように求めることができますか。</p> <p>9. 本時の振り返りをする。 ・ともなって変わる2つの数量の関係を比例関係と捉えて式に表すと、一方の数値を代入すれば、もう一方の数値がわかる。式はとても便利だ。 ・グラフを見ると2人の距離にすぐに気が付いた。グラフの見方がわかった。</p>	<p>○本時が比例のまとめであることを確認する。</p> <p>○気付きに対して、グラフのどこから判断しているのかわかるようにする。</p> <p>○本時の課題につながるように、生徒の意見を引き出す。</p> <p>○必要な情報を整理し、課題を解決するための見通しをもてるようにする。</p> <p>○自力解決したことについて、ペアで交流を行う。</p> <p>□比例の特徴を捉え、説明することができる。(考)</p> <p>○グラフや式は、それ単体では読み取ることができない内容に限りがあるが、併用することで多くの情報が読み取れることに気付くことができるようにする。</p> <p>○生徒から出た考えを板書し、本時の課題に対するまとめをする。</p> <p>□比例の関係を表、式、グラフを用いて表現したり、処理したりすることができる。(技)</p> <p>○本時の目標を確認し、比例について考えが整理されたこと、理解が深まったこと、新たにわかったことなどについて振り返るようにする。</p>

※「読み解く力」に関する指導上の留意点や評価規準について、Aの側面は黄色、Bの側面はピンクで示す。
※(技)は「数学的な技能」、(考)は「数学的な見方や考え方」を表す。

本時の目標
具体的な事象について、比例の考え方を利用して問題解決を図ることができる。



問題2: 5分後のCさんとAさんの距離は、どのように求めることができますか。



知識の再構築

- ・ともなって変わる2つの数量の関係を比例関係と捉えて式に表すと、一方の数値を代入すれば、もう一方の数値がわかる。式はとても便利だ。
- ・グラフを見ると2人の距離にすぐに気が付いた。グラフの見方がわかった。

中学校 第1学年数学科の実践事例 *現行の学習指導要領による

「4章 変化と対応」(啓林館 未来へひろがる数学1) 全16時間・本時は第9時

本時の目標 具体的な事象について、比例の考え方を利用して問題解決を回ることができる。

本時において、特に「読み解く力」を高め、発揮している生徒の姿

- ◆ 比例について、表、式、グラフを活用して、変化の特徴を見いだすことができる姿(A②)
- ◆ 具体的な事象を通して比例について考えることで、整理されたり、理解が深まったりしたことを再構築する姿(A③・B③)

単元構成はこちら (滋賀県総合教育センターHP)

「読み解く力」イメージ図との関係

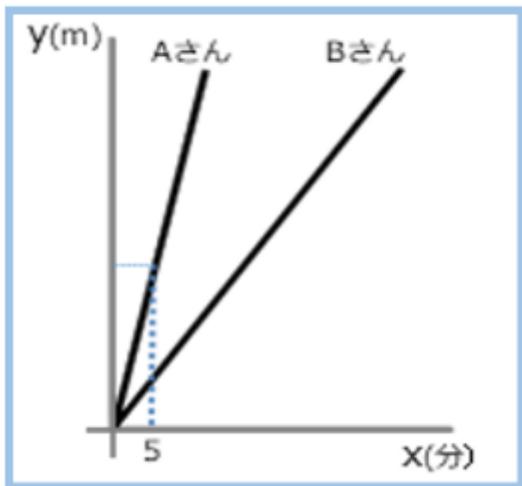
本時(第9時)の展開

主な学習活動	指導上の留意点(○)・評価規準(□)
<p>2. グラフから情報を読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「Aさんのほうがスピードが速い。」 「目盛りがないから見にくい。」等 	<p>○本時が比例のまとめであることを確認する。</p> <p>○気付きに対して、グラフのどこから判断しているのかを明らかにできるようにする。</p>
<p>3. 問題1について考える。</p> <p>問題1: 学校から東に向かって出発したAさんとBさんが5分後に離れている距離を求めなさい。</p>	<p>○本時の課題につながるように、生徒の意見を引き出す。</p>
<p>5分後に、2人がどのくらい離れているかを調べるには、どうすればよいのだろうか。</p>	<p>○必要な情報を整理し、課題を解決するための見通しをもてるようにする。</p> <p>○自力解決したことについて、ペアで交流を行う。</p>
<p>5. 課題を解決するために必要な情報について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「時間と距離の数値が必要だ。」 「AさんとBさんの速さが知りたい。」等 	<p>□比例の特徴を捉え、説明することができる。(考)</p> <p>○グラフや式は、それ単体では読み取ることができている内容に限りがあるが、併用することで多くの情報が読み取れることに気付くことができるようにする。</p> <p>○生徒から出た考えを板書し、本時の課題に対するまとめをする。</p>
<p>6. 課題解決に取り組む。(個人からペアへ)</p> <p>グラフから読み取って考える。</p> <p>式に表して考える。等</p>	<p>○Cさんの状況をグラフ、式と関連付けて考えるようにする。</p> <p>○比例定数が負の数であることと、AさんとBさんが東へ進んでいることをもとに、Cさんが西向きに進んでいることに気付くことができるようにする。</p>
<p>7. AさんとBさんのグラフについて、考え方や解決方法をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「グラフは変化が見やすい。」 「グラフでは読み取れない部分もある。」 「式は値を代入するだけで、求めたい答えがわかる。」等 	<p>□比例の関係を表、式、グラフを用いて表現したり、処理したりすることができる。(技)</p> <p>○本時の目標を確認し、比例について考えが整理されたこと、理解が深まったこと、新たにわかったことなどについて振り返るようにする。</p>
<p>8. 問題2について考える。</p> <p>問題2: 5分後のCさんとAさんの距離は、どのように求めることができますか。</p>	
<p>9. 本時の振り返りをする。</p> <p>知識の再構築</p> <ul style="list-style-type: none"> - ともなう変わる2つの数量の関係を比例関係と捉えて式に表すと、一方の数値を代入すれば、もう一方の数値がわかる。式はとても便利だ。 - グラフを見ると2人の距離にすぐに気が付いた。グラフの見方が変わった。 	

※「読み解く力」に関する指導上の留意点や評価規準について、Aの側面は黄色、Bの側面はピンクで示す。
 ※(技)は「数学的な技能」、(考)は「数学的な見方や考え方」を表す。

3. 問題1について考える。

問題1: 学校から東に向かって出発したAさんとBさんが5分後に離れている距離を求めなさい。



5分後に、2人がどのくらい離れているかを調べるには、どうすればよいのだろうか。



中学校 第1学年数学科の実践事例 ※現行の学習指導要領による

「4章 変化と対応」(啓林館 未来へひろがる数学1) 全16時間・本時は第9時

本時の目標 具体的な事象について、比例の考え方を活用して問題解決を回ることができる。

本時において、特に「読み解く力」を高め、発揮している生徒の姿

- ◆ 比例について、表、式、グラフを活用して、変化の特徴を見いだすことができる姿(A②)
- ◆ 具体的な事象を通して比例について考えることで、整理されたり、理解が深まったりしたことを再構築する姿(A③・B③)

資質・能力

- ③再構築
- ②分析・整理
- ①発見・蓄積

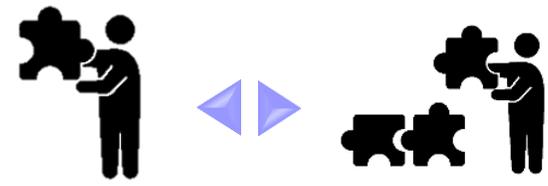
A・文章や図、グラフ B・他者とのやりとり

「読み解く力」イメージ図との関係

本時(第9時)の展開

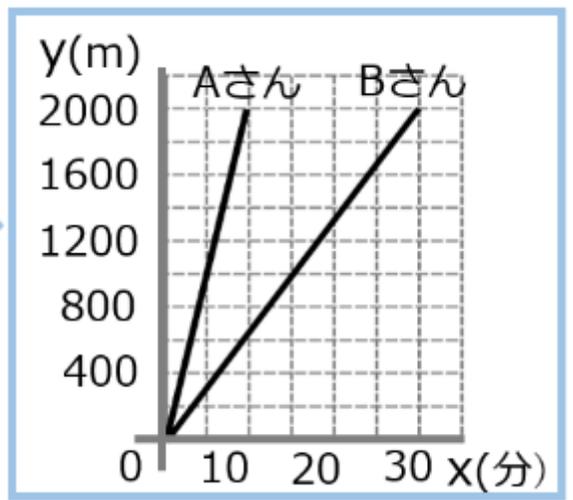
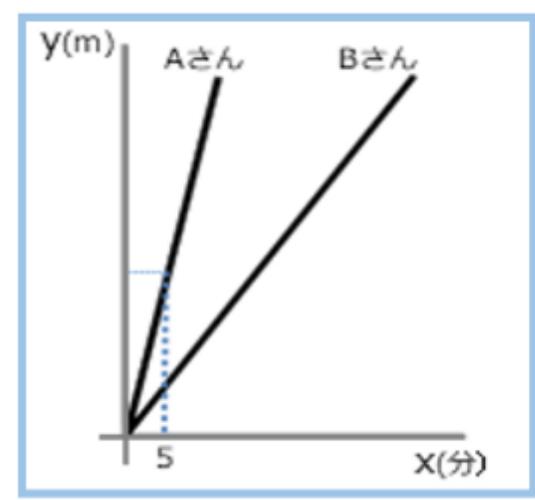
主な学習活動	指導上の留意点(○)・評価規準(□)
1. 本時の目標を知る。	○本時が比例のまとめであることを確認する。
2. グラフから情報を読み取る。 ・「Aさんのほうがスピードが速い。」 ・「目盛りがないから見にくい。」等	○気付きに対して、グラフのどこから判断しているのかを明らかにできるようにする。
3. 問題1について考える。 問題1: 学校から東に向かって出発したAさんとBさんが5分後に離れている距離を求めなさい。	○本時の課題につながるように、生徒の意見を引き出す。
4. 本時の課題を確認する。 5分後に、2人がどのくらい離れているかを調べるには、どうすればよいのだろうか。	
5. 課題を解決するために必要な情報について考える。 ・「時間と距離の数値が必要だ。」 ・「AさんとBさんの速さが知りたい。」等	○必要な情報を整理し、課題を解決するための見通しをもてるようにする。
6. 課題解決に取り組む。 (個人からペアへ) ・グラフから読み取って考える。 ・式に表して考える。等	○自力解決したことについて、ペアで交流を行う。
7. AさんとBさんのグラフについて、考え方や解決方法をまとめる。 ・「グラフは変化が見やすい。」 ・「グラフでは読み取れない部分もある。」 ・「式は値を代入するだけで、求めたい答えがわかる。」等	○比例の特徴を捉え、説明することができる。(考) ○グラフや式は、それ単体では読み取ることができている内容に限りがあるが、併用することで多くの情報が読み取れることに気付くことができるようにする。 ○生徒から出た考えを板書し、本時の課題に対するまとめをする。
8. 問題2について考える。 問題2: 5分後のCさんとAさんの距離は、どのように求めることができますか。	○Cさんの状況をグラフ、式と関連付けて考えるようにする。 ○比例定数が負の数であることと、AさんとBさんが東へ進んでいることをもとに、Cさんが西向きに進んでいることに気付くことができるようにする。
9. 本時の振り返りをする。 - ともなう変わる2つの数量の関係を比例関係と捉えて式に表すと、一方の数値を代入すれば、もう一方の数値がわかる。式はとても便利だ。 - グラフを見ると2人の距離にすぐに気が付いた。グラフの見方が変わった。	○比例の関係を表、式、グラフを用いて表現したり、処理したりすることができる。(技) ○本時の目標を確認し、比例について考えが整理されたこと、理解が深まったこと、新たにわかったことなどについて振り返るようにする。

※「読み解く力」に関する指導上の留意点や評価規準について、Aの側面は黄色、Bの側面はピンクで示す。
※(技)は「数学的な技能」、(考)は「数学的な見方や考え方」を表す。



5. 課題を解決するために必要な情報について考える。

「時間と距離の数値が必要だ。」
「AさんとBさんの速さが知りたい。」
等



中学校 第1学年数学科の実践事例 ※現行の学習指導要領による

「4章 変化と対応」(啓林館 未来へひろがる数学1) 全16時間・本時は第9時

本時の目標 具体的な事象について、比例の考え方を活用して問題解決を回ることができる。

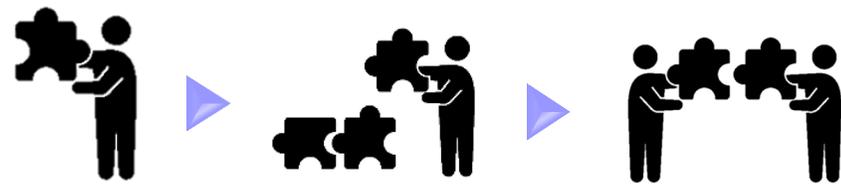
本時において、特に「読み解く力」を高め、発揮している生徒の姿

- ◆ 比例について、表、式、グラフを活用して、変化の特徴を見いだすことができる姿(A②)
- ◆ 具体的な事象を通して比例について考えることで、整理されたり、理解が深まったりしたことを再構築する姿(A③・B③)

単元構成はこちら (滋賀県総合教育センターHP)

①発見・蓄積 ②分析・整理 ③再構築

A・文章や図、グラフ B・他者とのやりとり



資質・能力

③再構築

②分析・整理

①発見・蓄積

A・文章や図、グラフ

B・他者とのやりとり

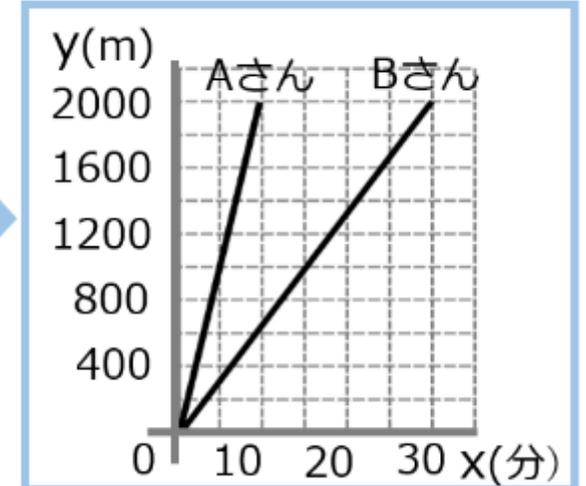
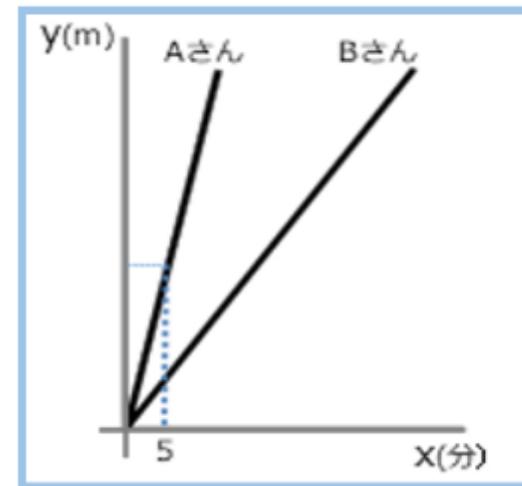
本時(第9時)の展開

主な学習活動	指導上の留意点(○)・評価規準(□)
1. 本時の目標を知る。	○本時が比例のまとめであることを確認する。
2. グラフから情報を読み取る。 ・「Aさんのほうがスピードが速い。」 ・「目盛りがないから見にくい。」等	○気付きに対して、グラフのどこから判断しているのかを明らかにできるようにする。
3. 問題1について考える。 問題1: 学校から東に向かって出発したAさんとBさんが5分後に離れている距離を求めなさい。	○本時の課題につながるように、生徒の意見を引き出す。
4. 本時の課題を確認する。 5分後に、2人がどのくらい離れているかを調べるには、どうすればよいのだろうか。	
5. 課題を解決するために必要な情報について考える。 ・「時間と距離の数値が必要だ。」 ・「AさんとBさんの速さが知りたい。」等	○必要な情報を整理し、課題を解決するための見通しをもてるようにする。
6. 課題解決に取り組む。 (個人からペアへ) ・グラフから読み取って考える。 ・式に表して考える。等	○自力解決したことについて、ペアで交流を行う。
7. AさんとBさんのグラフについて、考え方や解決方法をまとめる。 ・「グラフは変化が見やすい。」 ・「グラフでは読み取れない部分もある。」 ・「式は値を代入するだけで、求めたい答えがわかる。」等	○比例の特徴を捉え、説明することができる。(考)
8. 問題2について考える。 問題2: 5分後のCさんとAさんの距離は、どのように求めることができますか。	○グラフや式は、それ単体では読み取ることができている内容に限りがあるが、併用することで多くの情報が読み取れることに気付くことができるようにする。 ○生徒から出た考えを板書きし、本時の課題に対するまとめをする。 ○Cさんの状況をグラフ、式と関連付けて考えるようにする。 ○比例定数が負の数であることを、AさんとBさんが東へ進んでいることをもとに、Cさんが西向きに進んでいることに気付くことができるようにする。
9. 本時の振り返りをする。 - ともなう変わる2つの数量の関係を比例関係と捉えて式に表すと、一方の数値を代入すれば、もう一方の数値がわかる。式はとても便利だ。 - グラフを見ると2人の距離にすぐに気が付いた。グラフの見方が変わった。	○比例の関係を表、式、グラフを用いて表現したり、処理したりすることができる。(技) ○本時の目標を確認し、比例について考えが整理されたこと、理解が深まったこと、新たにわかったことなどについて振り返るようにする。

6. 課題解決に取り組む。 (個人からペアへ)

- ・ グラフから読み取って考える。
- ・ 式にして考える。

等



※「読み解く力」に関する指導上の留意点や評価規準について、Aの側面は黄色、Bの側面はピンクで示す。
※(技)は「数学的な技能」、(考)は「数学的な見方や考え方」を表す。

中学校 第1学年数学科の実践事例 ※現行の学習指導要領による

「4章 変化と対応」(啓林館 未来へひろがる数学1) 全16時間・本時は第9時

本時の目標 具体的な事象について、比例の考え方を利用して問題解決を図ることができる。

本時において、特に「読み解く力」を高め、発揮している生徒の姿

- ◆ 比例について、表、式、グラフを活用して、変化の特徴を見いだすことができる姿(A②)
- ◆ 具体的な事象を通して比例について考えることで、整理されたり、理解が深まったりしたことを再構築する姿(A③・B③)

単元構成はこちら (滋賀県総合教育センターHP)

「読み解く力」イメージ図との関係

資質・能力

- ③再構築
- ②分析・整理
- ①発見・蓄積

A・文章や図、グラフ B・他者とのやりとり

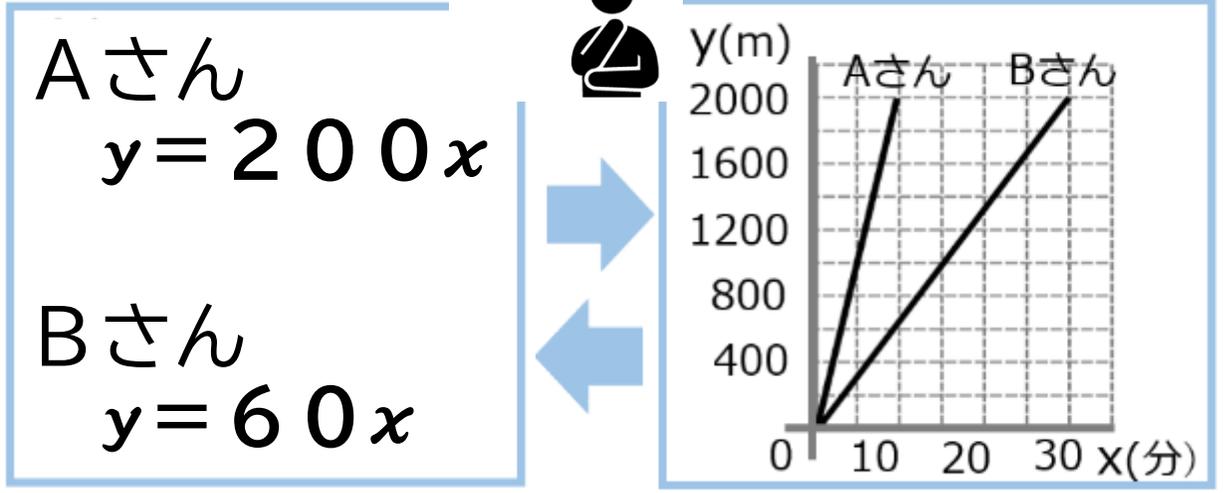
本時(第9時)の展開

主な学習活動	指導上の留意点(○)・評価規準(□)
<p>1. 本時の目標を知る。</p> <p>2. グラフから情報を読み取る。 ・「Aさんのほうがスピードが速い。」 ・「目盛りがないから見にくい。」等</p> <p>3. 問題1について考える。 問題1: 学校から東に向かって出発したAさんとBさんが5分後に離れている距離を求めなさい。</p> <p>4. 本時の課題を確認する。 5分後に、2人がどのくらい離れているかを調べるには、どうすればよいのだろうか。</p> <p>5. 課題を解決するために必要な情報について考える。 ・「時間と距離の数値が必要だ。」 ・「AさんとBさんの速さが知りたい。」等</p> <p>6. 課題解決に取り組む。 (個人からペアへ) ・グラフから読み取って考える。 ・式に表して考える。等</p> <p>7. AさんとBさんのグラフについて、考え方や解決方法をまとめる。 ・「グラフは変化が見やすい。」 ・「グラフでは読み取れない部分もある。」 ・「式は値を代入するだけで、求めたい答えがわかる。」等</p> <p>8. 問題2について考える。 問題2: 5分後のCさんとAさんの距離は、どのように求めることができますか。</p> <p>9. 本時の振り返りをする。 - ともなって変わる2つの数量の関係を比例関係と捉えて式に表すと、一方の数値を代入すれば、もう一方の数値がわかる。式はとても便利だ。 - グラフを見ると2人の距離にすぐに気が付いた。グラフの見方が変わった。</p>	<p>○本時が比例のまとめであることを確認する。</p> <p>○気付きに対して、グラフのどこから判断しているのかを明らかにできるようにする。</p> <p>○本時の課題につながるように、生徒の意見を引き出す。</p> <p>□必要な情報を整理し、課題を解決するための見通しをもてるようにする。</p> <p>□自力解決したことについて、ペアで交流を行う。</p> <p>□比例の特徴を捉え、説明することができる。(考)</p> <p>○グラフや式は、それ単体では読み取ることができている内容に限りがあるが、併用することで多くの情報が読み取れる。</p> <p>○生徒から出た考えを板書し、本時の課題に対するまとめをする。</p> <p>○Cさんの状況をグラフ、式と関連付けて考えるようにする。</p> <p>○比例定数が負の数であることと、AさんとBさんが東へ進んでいることをもとに、Cさんが西向きに進んでいることに気付くことができるようにする。</p> <p>□比例の関係を表、式、グラフを用いて表現したり、処理したりすることができる。(技)</p> <p>○本時の目標を確認し、比例について考えが整理されたこと、理解が深まったこと、新たにわかったことなどについて振り返るようにする。</p>

※「読み解く力」に関する指導上の留意点や評価規準について、Aの側面は黄色、Bの側面はピンクで示す。
※(技)は「数学的な技能」、(考)は「数学的な見方や考え方」を表す。

7. AさんとBさんのグラフについて、考え方や解決方法をまとめる。

「グラフでは、変化が見やすい。」
 「グラフでは、読み取れない部分もある。」
 「式は値を代入するだけで、求めたい答えがわかる。」



中学校 第1学年数学科の実践事例 *現行の学習指導要領による

「4章 変化と対応」(啓林館 未来へひろがる数学1) 全16時間・本時は第9時

本時の目標 具体的な事象について、比例の考え方を利用して問題解決を図ることができる。

本時において、特に「読み解く力」を高め、発揮している生徒の姿

- ◆ 比例について、表、式、グラフを活用して、変化の特徴を見いだすことができる姿(A②)
- ◆ 具体的な事象を通して比例について考えることで、整理されたり、理解が深まったりしたことを再構築する姿(A③・B③)

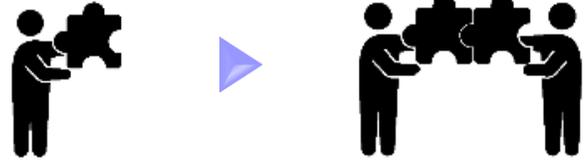
単元構成はこちら (滋賀県総合教育センターHP)

「読み解く力」イメージ図との関係

資質・能力

- ③再構築
- ②分析・整理
- ①発見・蓄積

A・文章や図、グラフ B・他者とのやりとり



8. 問題2について考える。

本時(第9時)の展開

主な学習活動	指導上の留意点(○)・評価規準(□)
<p>1. 本時の目標を知る。</p> <p>2. グラフから情報を読み取る。 ・「Aさんのほうがスピードが速い。」 ・「目盛りがないから見にくい。」等</p> <p>3. 問題1について考える。 問題1: 学校から東に向かって出発したAさんとBさんが5分後に離れている距離を求めなさい。</p> <p>4. 本時の課題を確認する。 5分後に、2人がどのくらい離れているかを調べるには、どうすればよいのだろうか。</p> <p>5. 課題を解決するために必要な情報について考える。 ・「時間と距離の数値が必要だ。」 ・「AさんとBさんの速さが知りたい。」等</p> <p>6. 課題解決に取り組む。(個人からペアへ) ・グラフから読み取って考える。 ・式に表して考える。等</p> <p>7. AさんとBさんのグラフについて、考え方や解決方法をまとめる。 ・「グラフは変化が見やすい。」 ・「グラフでは読み取れない部分もある。」 ・「式は値を代入するだけで、求めたい答えがわかる。」等</p> <p>8. 問題2について考える。 問題2: 5分後のCさんとAさんの距離は、どのように求めることができますか。</p>	<p>○本時が比例のまとめであることを確認する。</p> <p>○気付きに対して、グラフのどこから判断しているのかを明らかにできるようにする。</p> <p>○本時の課題につながるように、生徒の意見を引き出す。</p> <p>○必要な情報を整理し、課題を解決するための見通しをもてるようにする。</p> <p>○自力解決したことについて、ペアで交流を行う。</p> <p>□比例の特徴を捉え、説明することができる。(考)</p> <p>○グラフや式は、それ単体では読み取ることができている内容に限りがあるが、併用することで多くの情報が読み取れることに気付くことができるようにする。</p> <p>○生徒から出た考えを板書し、本時の課題に対するまとめをまとめる。</p> <p>○Cさんの状況をグラフ、式と関連付けて考えるようにする。</p> <p>○比例定数が負の数であることと、AさんとBさんが東へ進んでいることをもとに、Cさんが西向きに進んでいることに気付くことができるようにする。</p> <p>○比例の関係を表、式、グラフを用いて表現したり、処理したりすることができる。(技)</p> <p>○本時の目標を確認し、比例について考えが整理されたこと、理解が深まったこと、新たにわかったことなどについて振り返るようにする。</p>

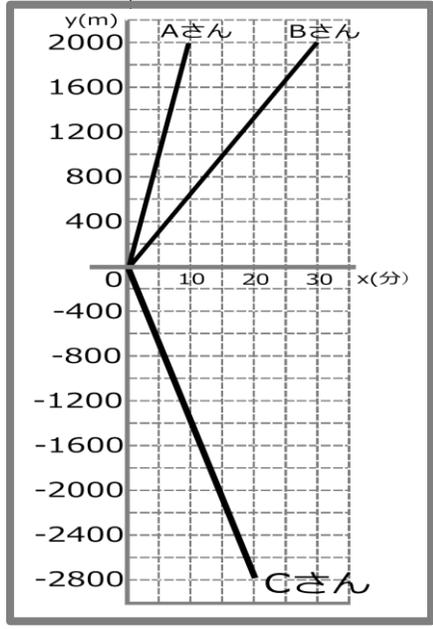
知識の再構築

・ともなう変わる2つの数量の関係を比例関係と捉えて式に表すと、一方の数値を代入すれば、もう一方の数値がわかる。式はとても便利だ。

・グラフを見ると2人の距離にすぐに気が付いた。グラフの見方が変わった。

※「読み解く力」に関わる指導上の留意点や評価規準について、Aの側面は黄色、Bの側面はピンクで示す。
※(技)は「数学的な技能」、(考)は「数学的な見方や考え方」を表す。

問題2: 5分後のCさんとAさんの距離は、どのように求めることができますか。



中学校 第1学年数学科の実践事例 *現行の学習指導要領による

「4章 変化と対応」(啓林館 未来へひろがる数学1) 全16時間・本時は第9時

本時の目標 具体的な事象について、比例の考え方を活用して問題解決を図ることができる。

本時において、特に「読み解く力」を高め、発揮している生徒の姿

- ◆ 比例について、表、式、グラフを活用して、変化の特徴を見いだすことができる姿(A②)
- ◆ 具体的な事象を通して比例について考えることで、整理されたり、理解が深まったりしたことを再構築する姿(A③・B③)

単元構成はこちら (滋賀県総合教育センターHP)

「読み解く力」イメージ図との関係

資質・能力

- ③再構築
- ②分析・整理
- ①発見・蓄積

A・文章や図、グラフ B・他者とのやりとり

本時(第9時)の展開

主な学習活動	指導上の留意点(○)・評価規準(□)
<p>1. 本時の目標を知る。</p> <p>2. グラフから情報を読み取る。 ・「Aさんのほうがスピードが速い。」 ・「目盛りがないから見にくい。」等</p> <p>3. 問題1について考える。 問題1: 学校から東に向かって出発したAさんとBさんが5分後に離れている距離を求めなさい。</p> <p>4. 本時の課題を確認する。 5分後に、2人がどのくらい離れているかを調べるには、どうすればよいのだろうか。</p> <p>5. 課題を解決するために必要な情報について考える。 ・「時間と距離の数値が必要だ。」 ・「AさんとBさんの速さが知りたい。」等</p> <p>6. 課題解決に取り組む。 (個人からペアへ) ・グラフから読み取って考える。 ・式に表して考える。等</p> <p>7. AさんとBさんのグラフについて、考え方や解決方法をまとめる。 ・「グラフは変化が見やすい。」 ・「グラフでは読み取れない部分もある。」 ・「式は値を代入するだけで、求めたい答えがわかる。」等</p> <p>8. 問題2について考える。 問題2: 5分後のCさんとAさんの距離は、どのように求めることができますか。</p> <p>9. 本時の振り返りをする。 - ともなって変わる2つの数量の関係を比例関係と捉えて式に表すと、一方の数値を代入すれば、もう一方の数値がわかる。式はとても便利だ。 - グラフを見ると2人の距離にすぐに気が付いた。グラフの見方がわかった。</p>	<p>○本時が比例のまとめであることを確認する。</p> <p>○気付きに対して、グラフのどこから判断しているのかわかるようにする。</p> <p>○本時の課題につながるように、生徒の意見を引き出す。</p> <p>○必要な情報を整理し、課題を解決するための見通しをもてるようにする。</p> <p>○自力解決したことについて、ペアで交流を行う。</p> <p>□比例の特徴を捉え、説明することができる。(考)</p> <p>○グラフや式は、それ単体では読み取ることができない内容に限りがあるが、併用することで多くの情報が読み取れることに気付くことができるようにする。</p> <p>○生徒から出た考えを板書し、本時の課題に対するまとめをする。</p> <p>○Cさんの状況をグラフ、式と関連付けて考えるようにする。</p> <p>○比例定数が負の数であることと、AさんとBさんが東へ進んでいることをもとに、Cさんが西向きに進んでいることに気付くことができるようにする。</p> <p>□比例の関係を表、式、グラフを用いて表現したり、処理したりすることができる。(技)</p> <p>○と、理解が深まったこと、新たにわかったことなどについて振り返るようにする。</p>

※「読み解く力」に関する指導上の留意点や評価規準について、Aの側面は黄色、Bの側面はピンクで示す。
※(技)は「数学的な技能」、(考)は「数学的な見方や考え方」を表す。

9. 本時の振り返りをする。

- ・ともなって変わる2つの数量の関係を比例関係と捉えて式に表すと、一方の数値を代入すれば、もう一方の数値がわかる。式はとても便利だ。
- ・グラフを見ると2人の距離にすぐに気が付いた。グラフの見方がわかった。



【ねらい】

「読み解く力」を高め、発揮する子どもの姿のイメージをもつ。

- 1 理論編 I の振り返り
- 2 イメージ図と子どもの姿
- 3 事例をもとに、
「読み解く力」について考える
 - (1) 小学校第3学年 国語科
 - (2) 中学校第1学年 数学科
 - (3) 中学校第1学年 英語科



中学校 第1学年英語科の実践事例 *現行の学習指導要領による

「Daily Scene 4 ウェブサイト」(東京書籍 NEW HORIZON English Course 1) (滋賀県総合教育センターHP)

単元構成はこちら (滋賀県総合教育センターHP)

本時の目標 自分の学校について、読み手を意識した工夫を加え、5文以上の英語で紹介する文を書くことができる。

本時において、特に「読み解く力」を高め、発揮している生徒の姿

- ◆英語を読んで、必要な情報を読み取る姿(A①)
- ◆読み取った情報をもとに、語彙や表現を整理し英文を書く姿(A②)
- ◆グループで情報を共有し、書いた英文を改善しようとする姿(B②)
- ◆多様な情報をもとに読み深めることで、考えを再構築する姿(A③)

「読み解く力」イメージ図との関係

本時(第2時)の展開

主な学習活動	活動のねらい(☆)・指導上の留意点(○) 評価規準(□)
<p>Input</p> <p>1. 本時の目標を知る。</p> <p>T: Next year, some American junior high school students are going to visit our city. So let's write about our own school.</p>	<p>○前時に学習したウェブサイトのモデル文(教科書教材)の内容や伝え方について振り返る。</p> <p>○姉妹都市からの中学生を迎えるにあたり、自分の学校について英語で伝えるウェブサイトを考えることを確かめる。</p> <p>☆英文を書く目的について、場面や対象となる相手等を、英語を通して正確に理解することができる。</p>
<p>Input ⇄ Intake</p> <p>2. 自分の学校を紹介するウェブサイトの英文を作成する。</p> <p>・海外の学校のウェブサイトを読んで、必要な情報を取り出す。 Ex. Welcome to ~. Our school is ~.</p> <p>・読み手を意識して、自分の学校紹介のウェブサイトに載せる英文を書く。</p>	<p>☆海外の学校のウェブサイトを読んで、理解することができる。 ポイント</p> <p>○表現の仕方やまとまりのある英文を書くための工夫を取り上げて共有する。</p> <p>○取り出した情報をもとに、ウェブサイトで伝えるために必要な語彙や表現を確認する。 ポイント</p> <p>☆読み手を意識して、自分の学校紹介のウェブサイトに載せる英文を書くことができる。</p>
<p>Intake ⇄ Output</p> <p>3. グループで交流し、情報を比較し、その情報をもとに英文を書き加えたり、書き直したりする。</p>	<p>○読み手が知りたい内容を伝えることができるよう、グループで交流して内容や表現をよりよいものにする。 ポイント</p> <p>○書いた文の内容と伝え方についてフィードバックし、読み手への配慮がある英文となっているかを確認する。</p> <p>□読み手を意識して、自分の学校について、5文以上で書くことができる。(表)</p>
<p>Output</p> <p>4. 個人で書いた紹介文を全体で共有し、その内容や構成、工夫に着目して読む。</p> <p>5. 本時の振り返りをする。</p>	<p>☆自分の学校の紹介文を読んで理解することができる。 ポイント</p> <p>○生徒の紹介文の内容と伝え方のよさを取り上げる。</p> <p>○紹介文を書く際の構成や工夫について、理解が深まったこと、新たにわかったこと等を振り返るようにする。</p>

※「読み解く力」に関わる指導上の留意点や評価規準について、Aの側面は黄色、Bの側面はピンクを示す。

※(表)は「外国語表現の能力」を表す。

本時の展開の **ポイント** どの教科等においても...

本時の目標
自分の学校について、読み手を意識した工夫を加え、5文以上の英語で紹介する文を書くことができる。

3. グループで交流し、情報を比較し、その情報をもとに英文を書き加えたり、書き直したりする。

4. 個人で書いた紹介文を全体で共有し、その内容や構成、工夫に着目して読む。

5. 本時の振り返りをする。

中学校 第1学年英語科の実践事例 *現行の学習指導要領による

「Daily Scene 4 ウェブサイト」(東京書籍 NEW HORIZON English Course 1) (滋賀県総合教育センターHP)

全2時間・本時は第2時

単元構成はこちら

本時の目標 自分の学校について、読み手を意識した工夫を加え、5文以上の英語で紹介する文を書くことができる。

本時において、特に「読み解く力」を高め、発揮している生徒の姿

- ◆英語を読んで、必要な情報を読み取る姿(A①)
- ◆読み取った情報をもとに、語彙や表現を整理し英文を書く姿(A②)
- ◆グループで情報を共有し、書いた英文を改善しようとする姿(B②)
- ◆多様な情報をもとに読み深めることで、考えを再構築する姿(A③)

「読み解く力」イメージ図との関係

本時(第2時)の展開

活動のねらい(☆)・指導上の留意点(○)	評価規準(□)
<p>Input</p> <p>1. 本時の目標を知る。</p> <p>T: Next year, some American junior high school students are going to visit our city. So let's write about our own school.</p>	<p>○前時に学習したウェブサイトのモデル文(教科書教材)</p> <p>○姉妹都市からの中学生を迎えるにあたり、自分の学校について英語で伝えるウェブサイトを考えることを確かめる。</p> <p>☆英文を書く目的について、場面や対象となる相手等を、英語を通して正確に理解することができる。</p>
<p>Input ⇄ Intake</p> <p>2. 自分の学校を紹介するウェブサイトの英文を作成する。</p> <p>・海外の学校のウェブサイトを読んで、必要な情報を取り出す。 Ex. Welcome to ~. Our school is ~.</p>	<p>☆海外の学校のウェブサイトを読んで、理解することができる。 ポイント</p> <p>○表現の仕方やまとまりのある英文を書くための工夫を取り上げて共有する。</p>
<p>Intake ⇄ Output</p> <p>3. グループで交流し、情報を比較し、その情報をもとに英文を書き加えたり、書き直したりする。</p>	<p>○取り出した情報をもとに、ウェブサイトで伝えるために必要な語彙や表現を確認する。 ポイント</p> <p>☆読み手を意識して、自分の学校紹介のウェブサイトに載せる英文を書くことができる。</p> <p>○読み手が知りたい内容を伝えることができるよう、グループで交流して内容や表現をよりよいものにする。 ポイント</p>
<p>Output</p> <p>4. 個人で書いた紹介文を全体で共有し、その内容や構成、工夫に着目して読む。</p>	<p>○書いた文の内容と伝え方についてフィードバックし、読み手への配慮がある英文となっているかを確認する。</p> <p>□読み手を意識して、自分の学校について、5文以上で書くことができる。(表)</p>
<p>5. 本時の振り返りをする。</p>	<p>☆自分の学校の紹介文を読んで理解することができる。 ポイント</p> <p>○生徒の紹介文の内容と伝え方のよさを取り上げる。</p> <p>○紹介文を書く際の構成や工夫について、理解が深まったこと、新たにわかったこと等を振り返るようにする。</p>

※「読み解く力」に関わる指導上の留意点や評価規準について、Aの側面は 、Bの側面は で示す。
 ※(表)は「外国語表現の能力」を表す。

本時の展開の **ポイント** どの教科等においても...

1. 本時の目標を知る。



T: Next year, some American junior high school students are going to visit our city. So let's write about our own school.



2. 自分の学校を紹介するウェブサイトの英文を作成する。

・海外の学校のウェブサイトを読んで、必要な情報を取り出す。

Ex. Welcome to ~.
Our school is ~.



中学校 第1学年英語科の実践事例 *現行の学習指導要領による

「Daily Scene 4 ウェブサイト」(東京書籍 NEW HORIZON English Course 1) (滋賀県総合教育センターHP)

全2時間・本時は第2時

単元構成はこちら

本時の目標 自分の学校について、読み手を意識した工夫を加え、5文以上の英語で紹介する文を書くことができる。

本時において、特に「読み解く力」を高め、発揮している生徒の姿

- ◆英語を読んで、必要な情報を読み取る姿(A①)
- ◆読み取った情報をもとに、語彙や表現を整理し英文を書く姿(A②)
- ◆グループで情報を共有し、書いた英文を改善しようとする姿(B②)
- ◆多様な情報をもとに読み深めることで、考えを再構築する姿(A③)

「読み解く力」イメージ図との関係

本時(第2時)の展開

主な学習活動	活動のねらい(☆)・指導上の留意点(○) 評価規準(□)
<p>Input</p> <p>1. 本時の目標を知る。</p> <p>T: Next year, some American junior high school students are going to visit our city. So let's write about our own school.</p>	<p>○前時に学習したウェブサイトのモデル文(教科書教材)の内容や伝え方について振り返る。</p> <p>○姉妹都市からの中学生を迎えるにあたり、自分の学校について英語で伝えるウェブサイトを考えることを確かめる。</p> <p>☆英文を書く目的について、場面や対象となる相手等を、英語を通して正確に理解することができる。</p>
<p>Input ⇄ Intake</p> <p>2. 自分の学校を紹介するウェブサイトの英文を作成する。</p> <p>・海外の学校のウェブサイトを読んで、必要な情報を取り出す。 Ex. Welcome to ~. Our school is ~.</p>	<p>☆海外の学校のウェブサイトを読んで、理解することができる。 ポイント</p> <p>○表現の仕方やまとまりのある英文を書くための工夫を取り上げて共有する。</p> <p>○取り出した情報をもとにウェブサイト ポイント</p>
<p>Intake ⇄ Output</p> <p>3. グループで交流し、情報を比較し、その情報をもとに英文を書き加えたり、書き直したりする。</p>	<p>○読み手が知りたい内容を伝えることができるよう、グループで交流して内容や表現をよりよいものにする。 ポイント</p> <p>○書いた文の内容と伝え方についてフィードバックし、読み手への配慮がある英文となっているかを確認する。</p> <p>□読み手を意識して、自分の学校について、5文以上で書くことができる。(表)</p>
<p>Output</p> <p>4. 個人で書いた紹介文を全体で共有し、その内容や構成、工夫に着目して読む。</p> <p>5. 本時の振り返りをする。</p>	<p>☆自分の学校の紹介文を読んで理解することができる。 ポイント</p> <p>○生徒の紹介文の内容と伝え方のよさを取り上げる。</p> <p>○紹介文を書く際の構成や工夫について、理解が深まったこと、新たにわかったこと等を振り返るようにする。</p>

※「読み解く力」に関わる指導上の留意点や評価規準について、Aの側面は 、Bの側面は で示す。

※(表)は「外国語表現の能力」を表す。

本時の展開の **ポイント**

どの教科等においても…



2. 自分の学校を紹介するウェブサイトの英文を作成する。

Ex.
Welcome to ~.
Our school is ~.

- ・読み手を意識して、自分の学校紹介のウェブサイトに載せる英文を書く。



中学校 第1学年英語科の実践事例 ※現行の学習指導要領による

「Daily Scene 4 ウェブサイト」(東京書籍 NEW HORIZON English Course 1) (道賀県総合教育センターHP)

全2時間・本時は第2時

単元構成はこちら

本時の目標 自分の学校について、読み手を意識した工夫を加え、5文以上の英語で紹介する文を書くことができる。

本時において、特に「読み解く力」を高め、発揮している生徒の姿

- ◆英語を読んで、必要な情報を読み取る姿(A①)
- ◆読み取った情報をもとに、語彙や表現を整理し英文を書く姿(A②)
- ◆グループで情報を共有し、書いた英文を改善しようとする姿(B②)
- ◆多様な情報をもとに読み深めることで、考えを再構築する姿(A③)

「読み解く力」イメージ図との関係

資質・能力	A・文章や図、グラフ	B・他者とのやりとり
③再構築	✓	
②分析・整理		✓
①発見・蓄積	✓	✓

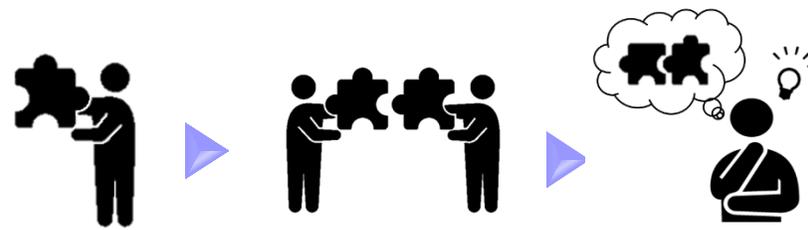
本時(第2時)の展開

主な学習活動	活動のねらい(☆)・指導上の留意点(○)
<p>Input</p> <p>1. 本時の目標を知る。</p> <p>T: Next year, some American junior high school students are going to visit our city. So let's write about our own school.</p>	<p>○前時に学習したウェブサイトのモデル文(教科書教材)の内容や伝え方について振り返る。</p> <p>○姉妹都市からの中学生を迎えるにあたり、自分の学校について英語で伝えるウェブサイトを考えることを確かめる。</p> <p>☆英文を書く目的について、場面や対象となる相手等を、英語を通して正確に理解することができる。</p>
<p>Input ⇄ Intake</p> <p>2. 自分の学校を紹介するウェブサイトの英文を作成する。</p> <p>・海外の学校のウェブサイトを読んで、必要な情報を取り出す。 Ex. Welcome to ~. Our school is ~.</p> <p>・読み手を意識して、自分の学校紹介のウェブサイトに載せる英文を書く。</p>	<p>☆海外の学校のウェブサイトを読んで、理解することができる。 ポイント</p> <p>○表現の仕方やまとまりのある英文を書くための工夫を取り上げて共有する。</p> <p>○取り出した情報をもとに、ウェブサイトで伝えるために必要な語彙や表現を確認する。 ポイント</p>
<p>Intake ⇄ Output</p> <p>3. グループで交流し、情報を比較し、その情報をもとに英文を書き加えたり、書き直したりする。</p>	<p>☆読み手を意識して、自分の学校紹介のウェブサイトに載せる英文を書くことができる。 ポイント</p> <p>○読み手が知りたい内容を伝えることができるよう、グループで交流して内容を共有する。 ポイント</p> <p>○書いた文の内容と伝え方についてフィードバックし、読み手への配慮がある英文となっているかを確認する。</p> <p>□読み手を意識して、自分の学校について、5文以上で書くことができる。(表)</p>
<p>Output</p> <p>4. 個人で書いた紹介文を全体で共有し、その内容や構成、工夫に着目して読む。</p> <p>5. 本時の振り返りをする。</p>	<p>☆自分の学校の紹介文を読んで理解することができる。 ポイント</p> <p>○生徒の紹介文の内容と伝え方のよさを取り上げる。</p> <p>○紹介文を書く際の構成や工夫について、理解が深まったこと、新たにわかったこと等を振り返るようにする。</p>

※「読み解く力」に関わる指導上の留意点や評価規準について、Aの側面は黄色、Bの側面はピンクで示す。

※(表)は「外国語表現の能力」を表す。

本時の展開の **ポイント** どの教科等においても...



3. グループで交流し、情報を比較し、その情報をもとに英文を書き加えたり、書き直したりする。

中学校 第1学年英語科の実践事例 *現行の学習指導要領による

「Daily Scene 4 ウェブサイト」(東京書籍 NEW HORIZON English Course 1) 単元構成はこちら
全2時間・本時は第2時 (滋賀県総合教育センターHP)

本時の目標 自分の学校について、読み手を意識した工夫を加え、5文以上の英語で紹介する文を書くことができる。

本時において、特に「読み解く力」を高め、発揮している生徒の姿

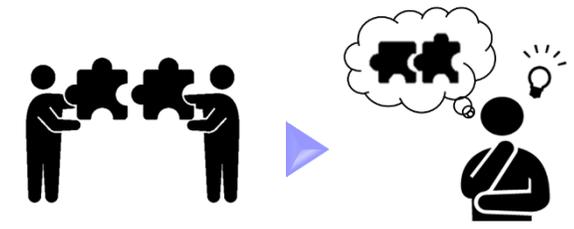
- ◆英語を読んで、必要な情報を読み取る姿(A①)
- ◆読み取った情報をもとに、語彙や表現を整理し英文を書く姿(A②)
- ◆グループで情報を共有し、書いた英文を改善しようとする姿(B②)
- ◆多様な情報をもとに読み深めることで、考えを再構築する姿(A③)

「読み解く力」イメージ図との関係

主な学習活動	活動のねらい(☆)・指導上の留意点(○) 評価規準(□)
Input 1. 本時の目標を知る。 T: Next year, some American junior high school students are going to visit our city. So let's write about our own school.	○前時に学習したウェブサイトのモデル文(教科書教材)の内容や伝え方について振り返る。 ○姉妹都市からの中学生を迎えるにあたり、自分の学校について英語で伝えるウェブサイトを考えることを確かめる。 ☆英文を書く目的について、場面や対象となる相手等を、英語を通して正確に理解することができる。
Input ⇄ Intake 2. 自分の学校を紹介するウェブサイトの英文を作成する。 ・海外の学校のウェブサイトを読んで、必要な情報を取り出す。 Ex. Welcome to ~. Our school is ~ ・読み手を意識して、自分の学校紹介のウェブサイトに載せる英文を書く。	☆海外の学校のウェブサイトを読んで、理解することができる。 ポイント ○表現の仕方やまとまりのある英文を書くための工夫を取り上げて共有する。 ○取り出した情報をもとに、ウェブサイト で伝えるために必要な語彙や表現を確認する。 ポイント ☆読み手を意識して、自分の学校紹介のウェブサイトに載せる英文を書くことができる。
Intake ⇄ Output 3. グループで交流し、情報を比較し、その情報をもとに英文を書き加えたり、書き直したりする。	○読み手が知りたい内容を伝えることができるよう、グループで交流して内容や表現をよりよいものにする。 ポイント ○書いた文の内容と伝え方についてフィードバックし、読み手への配慮がある英文となっているかを確認する。 □読み手を意識して、自分の学校について、5文以上で書くことができる。(表)
Output 4. 個人で書いた紹介文を全体で共有し、その内容や構成、工夫に着目して読む。 5. 本時の振り返りをする。	☆自分の学校の紹介文を読んで理解することができる。 ポイント ○生徒の紹介文の内容と伝え方のよさを取り上げる。 ○紹介文を書く際の構成や工夫について、理解が深まったこと、新たにわかったこと等を振り返るようにする。

※「読み解く力」に関わる指導上の留意点や評価規準について、Aの側面は 、Bの側面は で示す。
 ※(表)は「外国語表現の能力」を表す。

本時の展開の **ポイント** どの教科等においても...



4. 個人で書いた紹介文を全体で共有し、その内容や構成、工夫に着目して読む。

・生徒の紹介文の内容と伝え方のよさを取り上げる。

5. 本時の振り返りをする。

・紹介文を書く際の構成や工夫について、理解が深まったこと、新たにわかったこと等。